

令和6年度第4回熊本市社会福祉審議会地域福祉専門分科会議事録

【日時】

令和7年（2025年）2月14日（金） 10:30～12:00

【場所】

熊本市役所 4階モニター室

【出席委員（五十音順・敬称略）】

伊藤 良高	堅島 陽子	古賀 倫嗣	鳥崎 一郎	永田 賢正
原 清美	樋口 務	塘林 敬規	水田 博志	八塚 夏樹
細西 恭代				

（以上11名）

【欠席委員（五十音順・敬称略）】

野口 志津子 金澤 知徳

（以上2名）

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 席次表
- ・ 【資料1】第3回地域福祉専門分科会及びパブリックコメントでいただいたご意見への対応について
- ・ 【資料2】第5次熊本市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）

【議事】

- ・ 事務局報告
- ・ 意見聴取

【傍聴者】

なし

議事進行：古賀会長

○事務局報告

- ・ 的場健康福祉政策課長から “【資料１】第３回地域福祉専門分科会及びパブリックコメントでいただいたご意見への対応について “に沿って説明。

○意見聴取

古賀会長 (質疑応答)	事務局から資料１について報告があったが、委員の皆様、ご意見やご質問等あればご発言頂きたい。
永田委員	地域福祉という市民にとって身近な課題でありながらパブリックコメントの結果が１人であったというのが残念というか少し問題ではないかと思った。
古賀会長	パブリックコメントの結果が１人だったということだが、事務局は実施に際し、何か工夫したことはあるのか？
的場課長	熊本市社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会など関係機関への呼びかけや周知について可能な限り実施したものの、結果としては１人のみであった。
古賀会長	事務局としても努力はされたということは分かった。
堅島委員	熊本市手をつなぐ育成会の運営会議でも福祉と教育の連携というテーマが話題となっている。障がい児の場合、学校で問題を起こしたときはスクールソーシャルワーカーと学校と児童相談所などが入られると思うが、うちに支援相談に来るのは、放課後等デイサービスで母親とよく話をして気持ちを理解している相談支援専門員の方たちである。しかし、相談支援専門員はいまだに学校の会議には入れてもらえない状況であり、福祉と教育の連携の実現にはいまだ至っていない現状がある。 障がいのある子は、問題があった時、その時の状況や自分の思いを上手く話せないし、発語のない子もいる。相談支援専門員は、資格を持ち家庭訪問などをして、その子の気持ちや親の思いも聞き取りしている。是非、学校の会議に参加させてほしい。早めの対応で担任や学校への不信感がきっかけで不登校や引きこもりになるのを減らし、引いては多忙な児童相談所に廻る件数も減るのではないかな。 また、家族が自治会役員や自治協議会に関わっていて気づかされたことがある。町内の次代の担い手不足・確保が困難な昨今、国の方針で障がい児・者、高齢者の方々が地域で暮らすように勧められている。それを支えるための民生委員・ヘルパーなど支援者不足も以前から心配されている。校区のささえりあと障がい者相談支援センターが繋がれば、お互いに重なる部分もあり助かる方々も多いではないかと思う。このよう

	な福祉政策を町づくりセンター・校区自治協議会を通して各町内の方々に届くように願い祈っている。
古賀会長	今回の計画のキーワードが“担い手をどう育てていくか”というのがあったと思う。ハードルが高くないところから始めてもらうといった工夫や、各地域の現状・特性に合わせてまちづくりをしていくことで担い手を確保していくことが大事だと思う。
鳥崎委員	95カ所ある校区社協でも、年間計画の中で研修を実施するなど各校区でどれだけプレゼンスを高めることができるか、どうやって校区全体の中心になっていけるか、という点が課題である。今回の第5次計画でも校区社協の役割として25項目、また国勢調査など実際に活動を支えている民生委員にいたっては38項目の役割の振り分けがされている。担い手不足という課題もあるが、校区社協として地域福祉における大きな役割を担っていることを認識し、計画に沿って各校区でできることを考えて、それを実現できる力をつけていきたいと思う。
樋口委員	計画の内容としてはとても良いものができているが、本計画の公開はいつになるのか。
的場課長	年度末に計画の確定、新年度に公開予定となっている。
樋口委員	見せ方の工夫というかネットを使って情報にアクセスしやすくするなどして、幅広い層の人々の目に入るよう、公開するときの工夫はぜひお願いしたい。
古賀会長	若い世代にどのように伝えていくのか、情報をどう繋げていくかの工夫はとても大事だと思う。
伊藤委員	資料の中にある学校教育というのはとても大事だと思う一方で、学校教育と限定すると教育と福祉の連携協力という観点からは少し意味が狭まってしまうこともあるかと思う。そのあたりは文章などでうまく表現してほしい。
塘林委員	前回の第4次計画にも携わったが、今回も本当に素晴らしいものが出来たと思う。社会が急速に変化していく中で、本計画策定の背景の趣旨のところが委員やパブリックコメントの意見がしっかり反映されていて良いと思う。 課題として挙がっていた若者の参画についても、若者の中には積極的に徳を積みたいと思っている人もいるかもしれない。そういった人達と本計画を繋げるために、どのように周知し、実践していくかというのが大事だと思う。第4次計画も素晴らしかったが、さらに様々なことに対して配慮した良い計画が出来たと思っている。
鳥崎委員	校区社協や民生委員の活動からこの計画がどういう風に繋がるのかと

	思って計画を見ているが、災害時・防災時における自助・共助など地域事情という観点から考えると、大きな課題を抱えているのは制度と制度の狭間にいる人々だと思う。公助が及ばない、共助の仕組みも作りづらいような制度の狭間にいる人々へ、地域社会の中でどのように手を差し伸べていくのか、これからも引き続き検討していきたい。
細西委員	パブリックコメントにもあった学校教育と福祉の連携について、例えば学校の先生の働き方改革の影響で放課後に学校の先生に連絡できないなど、保護者から問い合わせがある。今は連絡網といったものもないので、放課後に子どもが帰ってきていないといった問題が発生したときに、どこに連絡を取ればいいのか分からない。放課後の子どもの安全確保といった学校教育における課題も、教育と福祉の連携の中で地域の課題として取り扱っていけたら良いと思う。
古賀会長	学童クラブの設置が義務化されてからしばらく経つが、その窓口や運営が安定してきたのはここ10年位の話だと思う。細かいところは個別に運用の中で対応する必要はあるものの、福祉と教育の連携というテーマで、これらの課題を本計画の中に盛り込めたことはとても大きいことだと思う。
原委員	67ページに市民公益活動支援基金について記載があるが、小・中学生や高校・大学生等を対象とした「こども・学生ボランティア助成」とは具体的にどういった助成制度なのか。
古賀会長	この件については、運営委員長をしている私から回答する。これまではNPO団体や任意団体などの大人のみを対象として市民公益活動支援基金から助成を行うことでその活動を応援する制度であったが、3、4年程前に次世代の熊本市を担う学生を育てたいという目的で小・中学生及び高校・大学生の部門が設立された。ただし、申請は大人が行うことになっており、活動に参加することも達の名簿と一緒に申請を行う流れとなっている。来年度も5月頃に募集を始める予定だが、現在の申請方法では、どうしても大人の思惑も入ってしまう部分があるので、こどもの自主性を押し出すような申請書や活動内容にできないか検討しているところである。
伊藤委員	この地域福祉専門分科会に参加させて頂いたことで大変勉強になったが、やはり古賀会長のおっしゃったwell-beingという言葉はどこかで登場させることはできないのかなと思う。何のための地域福祉なのかと言ったらwell-beingの実現のためだというメッセージをどこかに入れられないかなと思っている。
古賀会長	その件については事務局にてご検討頂くことになるかと思う。

鳥崎委員	市長挨拶を聞いて、こうして立派な計画も策定された中でこれから7年間頑張るぞ、多くの人たちと関われるようにしていこう、と思っているので、活動全体のレベルを上げるためにも必要な経費をきちんと予算としてつけるぞ、と市長にもぜひ発言して頂きたい。 助成金もあるが現状はほとんどがボランティアであり、ボランティアでは活動ができないということではないが、計画を策定した以上、必要な部分はきちんとお金もかけていただきたい。
古賀会長	市長の頭の中には民生委員のなり手をどうやって増やすかという課題があると思う。そのための対策がこの地域福祉計画であり、今回の民生委員協力員制度だと思う。熊本市社会福祉協議会の挨拶は民生委員発祥の地の長として誇りを持って行っていただきたい。
永田委員	計画の中に外国人に関する記載があるが、今後外国人の増加に伴い地域の仕事を外国人が担うこともあると思うので、そういった方々にも計画を見てもらえるようにすることが必要だと思う。
古賀会長	ニュースを見ていると、外国人の方が一戸建てやマンションを購入することも多いらしい。そうすると自治会に入るか否かという話になるので、その方々にどう地域に入っていってもらうか、どう対応していくかということが課題だと思う。
古賀会長	最後に、今回の第5次地域福祉計画は、地域を担う大人から子どもへ、そしてその子どもが20年後新たな地域の担い手になるための活動計画である。活動には予算の裏付けが必要というのは勿論だが、先程述べた民生委員発祥の地としての誇りや地域活動の志を持って立てた計画だというのが本質だと思う。委員の皆様にはこれまで4回にわたる分科会に出席いただき、そして熱心に取り組んでいただいたことに改めてお礼を申し上げたい。

【議事終了】